

NPO法人 大分県協育アドバイザーネットワーク 総会のご報告

2016年度の活動の充実への期待

理事長 中川 忠宣



充実した会報誌のおかげで、多くの会員の地域での活動を知ることができ、また、「協育」ネットの活動を発信できることは私達のNPO法人が目指すところです。私たちの「協育」ネットは大分県における「協育」のプラットフォームの役割を担うことを目的に会員相互が①高まろう、②広めよう、③繋がろう、の3つの柱のもとに活動しており、一人ひとりの会員の方々への活動を広げ、充実していくための仲間の集まりです。2016年度総会でもそれを確認し、今年度の事業計画を承認していただきました。会員の皆様のご協力と活躍を心から期待しています。総会でも報告がありました2点について報告し、今年度の活動の出発したいと思います。

1つ目は会員数の件です。大分大学での「協育アドバイザー養成講座」の受講生で構成している「協育」ネットですが、日常の繋がりが徐々に遠くなる会員の方については無理に引き止めなくて、「本当に会員として『繋がろう』という方々で組織することではないか。」という方向性です。よって若干少なくなり69名となりましたが、会員の方々には地域での活動情報を載せたり、会報誌担当が取材に伺ったりしますのでよろしくお願い致します。2つ目は「協育」ネットの収入予算の件です。会費だけでは運営はできませんので、これまで文部科学省等の事業受託等をおして、事業収入を得てきましたが、そうした取組の拡大が必要であるという意見もありました。会員の方々で事業受託できるような情報がありましたらお寄せいただきたいと思います。子どもゆめ基金の応募も1つありますが……。会員の皆様におかれましては、それぞれが関係する研修に加えて、毎年2月に国東市梅園の里で開催しています「地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」や、5月に開催されています篠栗の実践研究交流会等へ参加して、自分自身の活動の新しい発想を産み出す機会にさせていただくこともお勧めします。どうか、本会報誌に掲載しました2016年度事業へのご協力をお願いしますとともに、「協育」ネットの発展のために本年度もよろしくお願い致します。



(会員同士の情報交換！)



(事務局からの報告)



(会計報告)



(会計監査報告)

大反響だった 会員スキルアップ研修！

「みんなみんな Happyになあれ」

ころころHappy代表
足利 悦子



体験してみよう！



研修1 講義

発達障がいの子を持つ母たちのメッセージから子育てに関わる「協育」

研修2 ワークショップ

困り体験プログラム

今年の協育ネット総会の会員スキルアップ研修は一昨年取材に行きました佐伯のころころHappyさんにぜひにお願いして実現しました。代表の足利さんは昨年度から協育ネット理事としてお手伝いして頂いています。ころころHappyさんの公演は体験プログラムもあり分かりやすく



(疑似体験)



(何が見えるかな?)

楽しく学ぶ事が出来ます。総会当日はメンバーのみならず佐伯から会場までわざわざ来ていただきました。研修1の講義では障がいは個性正しい理解とサポートがあれば学校の中で社会で楽しく過ごす事が出来るんだよ！先日NHKの番組で取り上げられていました40年間保育士をしてきた野島千恵子さんの言葉に「子どもの中で子どもを育てる」「子どもは子どもの中で育つ」すなわちインクルーシブ保育 共生の社会がいかに大切かが理解出来た講義でした。研修2では総会参加者みなさんに実際にプログラムを体験していただき、障がい者の目線での回りの見え方を知る事でどうしたらうまく交わる事が出来るか考えてみました。写真のようにその子の視線の中はこちらから入る事が、声を掛けるよりも効果的であることが分かりました。ころころHappyさんはこれからもこの公演活動や困りを抱えたお母さんの相談活動を続けて行きますので会員の皆様の中で公演活動を依頼したい時はお気軽に協育ネット事務局までお問い合わせください。(広報部 上原)



(相手の視線に入る)



(一部分だけに集中)

第35回大会 中国・四国・九州地区 生涯教育実践研究交流会 「頑張ろう熊本・大分支援！復興大会！」



●期 間 平成28年5月21日(土)～22日(日)
●会 場 福岡県立社会教育総合センター

大会参加 ご報告！



(社会教育総合センター)



(開会式)



(分科会会場)



(夜の大交流会)



(交わる安達事務局長)



(久留米 パパラフ馬場さん)



平成28年5月21日(土)22日(日)に第35回中国・四国九州地区生涯教育実践研究交流会が福岡県立社会教育総合センターで全国から実践関係者、行政関係者、研究者等延べ600名が参加し、情報交換および実践活動の交流会が開催されました。この大会は、中国・四国・九州地区の生涯教育・社会教育の実践者の皆さんが、自らの活動事例を手弁当で紹介するもので、今年も28の事例発表と2つの特別企画が揃いました。当団体も発表の機会をいただき活動事例として「NPO「協育」アドバイザーネットワークの理念と方法～5年間の成果と取組」をテーマに事例発表をいたしました。大分大学高等教育開発センターが主催する「協育アドバイザー養成講座」を修了した受講生が、家庭、学校、社会が地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組むネットワークをつくり、「教育の協働(協育)」を推進する一翼を担い、大分県における「協育」のプラットフォームの役割を担うことを目的にNPO法人を設立した経緯と活動の充実のために①高まろう、②広めよう、③繋がろう、の3つの柱をかかげ、さまざまな事業へ取り組んできた5年間のことを発表いたしました。また、三浦清一郎先生の特別報告も迫力がありました。2日目の、特別企画「インタビュー・ダイアログ」の1部 「小中学校聴講制度」の先見性と未来性—では、行政のトップや元教育長、実践に踏み切られた校長先生を登壇者にむかえこれからの方向性を学びました。2部の「生涯教育実践研究交流会」の意義と使命では、代表理事の中川忠宣教授も登壇され、国東市梅園の里で開催される「地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」を仕掛人としての立場で、継続し実施続けるための手法等を拝聴いたしました。今回も新たな「ヒト・モノ・コト」に出会い沢山のエネルギーを充電してきましたので、来年は、多くの会員の皆様とご一緒にこの思いを共有したいと思います。(安達)

集い

集う 第35回大会 はじめて参加してきました。35年前から始まった生涯教育実践研究交流会、30回大会までは生涯学習だったらいい、時代の変化からかわりましたが、手弁当で集まり大会を維持・継続してきた諸先輩のみなさんとお会いし生涯学習・生涯教育の大切さ…、学びは一生であると再認識しました。毎年5月の第3週に開催されるこの大会、ぜひ協育ネット会員の皆さんにもどんどん参加して欲しいと思います。皆さんの日々の活動のヒントがここにはあります。

学び

学ぶ 分科会は4会場、発表は午前3事例、午後4事例と様々な発表があり今回は28の事例、自分の活動に会った事例発表の会場を行き来出来ます。聞きたいな～と思ってるのが重なるとちと残念ですが、その時はその会場受付で資料をゲットします。後は交流会でお話を直接聞いたり、質問したりと、なにやら6時間学び・6時間呑む(交流して意見交換)のがこの大会の醍醐味らしい～(#^.^#)

交わる

交わる 大交流会は時間を忘れて語り合います。いろんな分野で活動している方々と名刺交換させて頂きました。



(広報部 上原)



今回第35回大会中国・四国・九州生涯教育実践研究会に参加して感じたことがあります。それは、人との繋がりの大切さです。今まで話したことがないような職種の方や年配の方、若い方といろいろな年齢層の方がいらっしゃいました。こういう機会にいろいろな方とお話しをし、改めて人との繋がりの大切さを実感しました。自分にはない考え方を知ることは自身の成長に繋がると感じています。そして、人との繋がりがこの大会の醍醐味でもあり、成功と継続してるんだと感じました。そして、私にとって自分の目標にとっても役立った2日間でした。なぜなら、仕事や年齢関係なく地域づくりや子育てに情熱を持っている方々のお話を聞かせていただけたら、講演会でもとても得るものがあったからです。将来教育現場で働きたいと考えている中で、今すべきこと・大切にしなければいけない気持ちなどを再確認することができました。今回は参加すると決断して良かったと思っています。これからの社会に求められている人材は、能動的に学ぶ人だと考えています。何をすることも、受動的では得るものがないと思います。能動的に取り組む方が得るものも多くあり成長することができるからです。このような姿勢は、これからの大学生活また教師人生にとって大いに大切なことだと考えています。これからも日々向上心を持ち自ら様々な体験をし成長すると共に人間力を上げていこうと改めて強く感じる事ができた2日間でした。ぜひこれからも参加し、多くの方と出会い様々なことを吸収していきます。(上原 嵯理)